

ヤクシソウ

学名： *Youngia denticulate* Kitam. 科名：キク科



ヤクシソウは北海道から九州および朝鮮半島、中国、台湾などに分布し、日当たりの良い山地や道端などに自生する越年草です。花期は9～11月で、黄色の花を咲かせます。開花時は上向きに咲きますが、種子ができ始めると横あるいは下向きになり、やがてタンポポのような白い綿毛のある直径3mmほどの黒褐色の実ができます。

ヤクシソウという名前のヤクシは、「薬師如来（やくしにょらい）」よりとられました。607年に日本に伝来した薬師如来は、薬壺を持ち病気を治し災難を払う仏様として知られています。法隆寺や薬師寺などの有名なお寺にも安置されています。ヤクシソウの葉の形が薬師如来の後光に似ていることから名付けられたと言われています。ヤクシソウは葉や茎をちぎると苦味のある乳液が飛び出すことから、ニガクサやチクサなどとも呼ばれることがあります。

ヤクシソウの薬理作用の詳細は不明ですが、乾燥させた葉や花に薬効があるとされ、民間薬として皮膚の腫れ物や凍傷などに用いられていました。

生薬名	薬師草（ヤクシソウ）
薬用部位	頭花
薬効	—
用途	民間薬として皮膚の腫れものに用いられた。



カワラヨモギ

学名： *Artemisia capillaris* Thunb. 科名：キク科



この爽やかな見た目の植物はカワラヨモギです。名前の通り、川原に生えるヨモギで日本や中国に分布しています。草餅やお灸のモグサに使用されるヨモギと同じヨモギ属であり、日本では30種以上のヨモギが自生していると言われています。

高さ30〜100cm、茎は著しく分岐する多年草です。葉の形状が他のヨモギ属と異なり、丸みを帯びたギザギザした形ではありません。夏は水草のような緑色の葉が綺麗ですが、秋の開花時期になると夏の姿とは一変し、葉が枯れて黄色の多数の花を咲かせます。

生薬では、「古い(陳)株が元(茵)になって新しいヨモギ(蒿)が出た」という意味で、「茵陳蒿(インチンコウ)」と呼ばれています。この生薬名は、カワラヨモギの株が枯れて冬を越し、春になると香りの良い新しい葉や茎が出る様子を表現しています。茵陳蒿は胆汁の分泌を促進し、脂肪の消化吸収を助ける作用があるため、胆石などの胆道の病気に用いられます。

カワラヨモギの花



生薬名	茵陳蒿(インチンコウ) 局方生薬
薬用部位	頭花
薬効	胆汁分泌増加作用
用途	胆石などの胆道の病気に用いられる。 茵陳蒿湯(インチンコウトウ)、茵陳五苓散(インチンゴレイサン)、 加味解毒湯(カミゲドクトウ) など